

おしかけ座談会 結果

日時：令和元年7月17日（水）

午後2時～2時45分

会場：コミセン大ホール

～ 民生委員児童委員協議会 ～

○参加者

民生委員児童委員協議会16名、保健福祉課3名

○資料説明

・「10年後のまちを描く」による第6次まちづくり推進総合計画の説明

○懇談内容（民＝民生・児童委員、町＝職員）

民：人口減少が進んでいるという説明だが、10年後の広尾町の人口は何人になると予想しているのか。

町：（人口推計の資料を配付）約10年後の2030年には5,102人になる予想である。団塊の世代が亡くなる頃には大きく減ることになる。ただし、自然減よりも社会減が広尾町の人口減少に与える影響が大きいという分析結果であり、少子化対策も大事であるが、10代後半から20代前半の子どもたちが地元の高校に通い、広尾町に就職してまちに残ってもらえるようにする必要がある。そのためには、広尾に住むわたしたち大人が、子どもたちに対し、広尾で進学すること、就職することの良さや価値を語ることができなければならない。

民：高校2年生が3名部会員として参加しているが、この人数を増やすことはできないのか。

町：町としては、6人でも9人でも、もっとたくさん参加してもらうことは可能であるが、高校生が色々と忙しいようで、3名を選抜してくれた。今後、小中学生も含む広尾の子どもたちが計画策定やまちづくりに関わる機会が増えるよう検討していきたい。

町：まちづくり懇談会で、「広尾の子どもは広尾に対する理解が低く、広尾のことを好きではない子が多いのでは」という指摘があった。それはなぜかという、まちづくりに関してお客さんの立場で、主体的に関わっていないからだという意見であった。このようにまちづくりに少しでも関わりを持つことにより、広尾への理解が深まり、広尾のことが好きになるきっかけになれば。

民：人口は、都市部も減っているので、地方ではどうにもならないのでは。

民：若い人がどんどん減って、高齢者ばかりが多くなると、まちの活気がなくなってしまう心配がある。

町：豊似老人クラブの集まりに出向き懇談を行った際に、高齢化率が5割を超える空

知管内の上砂川町の取組の新聞記事を紹介した。上砂川町では、高齢化を逆手にとって、元気な高齢者がまちづくりの担い手になり、まちが活性化している。

民：大手会社が参入してしまうと、個人事業者がコツコツと頑張っている競争力が無いので敵わない。地元の商業を守り、親が築いたものを若い後継者に引き継ぐことができるような取組ができないか。

民：大手会社が参入したとしても、地元の人が多く雇用されるシステムを作るべき。

民：町内の商店はシャッターを降ろした店が多く、まちを活性化させて若者が将来に希望を持てるようなまちづくりをすべき。

民：町がソーラーパネルを設置して発電事業を行い、町民に安価な電気を供給し、その安くなったお金を地元の商店での買い物に使うようなシステムが作れないか。

民：これからできることは限られていると思うので、行政改革の取組内容も踏まえて、現実に合わせて計画を作成すべき。

町：人口が増えて右肩上がりの時代は、あれもやります、これもやりますという計画を作っていたが、今は人口が減り続け、財政状況も悪化しているので、そういう訳にはいかない。できることを絞り込んでいき、有効な施策を計画に盛り込んでいきたい。

民：今までわたしたちは町にお願いするばかりで、自分でできることも自分で何とかするという意識が少なかった。これからは、高齢者も体が元気なうちは自分たちでまちを盛り立てていく気持ちで頑張っていきたい。